

寄稿

「創年大学ぶらぶらクラブ」とは？

幹事 渡部 修(中)

●学びと実践

「創年大学ぶらぶらクラブ」は、市が生涯学習の一環として開催している創年大学の受講生および終了生の希望者で構成されています。

まちづくりや創年の役割について学ぶとともに、行政との協働によるまちづくりを実践することを目的にして活動しています。

●発足のきっかけ

平成二十一年、創年大学の講座として、聖徳大学の清水教授から「ふるさと検地」と題したワークショップ形式の講座を受講しました。

それまで、講座といえただけ受講するだけだった私たちは、「あとは皆さんで実践を！」と言われ大混乱に陥りました。

「班長は誰」「テーマは？」「役割分担は？」など、全く見知らぬ人たちと手探りで共同作業を始めました。今思い出しても、たのしい(楽しい)体験の始まりでした。

●地域マップ作りを通して

そんな中で、これまで行ってきた矢板市内の史跡めぐりの成果を生かし、ふるさと矢板への熱い思いを形にしようとして、受講生がアイデアを出し合い、最終的にはある程度の出来栄が想像できる地域マップ作りを行うことに落ち着きました。し

うとの思いで立ち上げたのがこの団体です。この「ぶらぶら」という名前には、ひとりひとりが無理をせず続けて行こうとの思いがこもっています。

●さまざまなボランティア活動

今年、会員三十六名となり、できるだけ行政の力を借りず、協働をスローガンにしてボランティア活動を続けています。

竹とんぼ作りによる幼稚園や小学生との交流、内川橋護岸壁のキジバトモザイク洗浄、秋祭りでのさんま焼き(創年大学との共催)、たかはらマフソン給水、フェスタ in YAITAでの餅つきなどを行っております。



ぶらぶらクラブの皆さん

しかし、そのマップ作りも、一言では語れない程に苦労をしました。

●無理をしない

そんな苦楽を共にした九人の仲間が、修了式を終えてもこのつながりを絶やさずにいよ

●内川沿いを歩いてみませんか？

今年からは、内川の土手の草刈を始めましたので、市民の皆さまには、内川沿いをぶらぶらと散歩していただき、ふるさ矢板が誇る高原山の風景を楽しんでいただければと思います。

岡目八目



ラジオ「矢板時間」パーソナリティ
松浦千佳さん
RADIO BERRY FM76.4
毎週火曜日 12:00~

北海道北見市出身、宇都宮在住。NHK北見放送局・宇都宮放送局を経て、現在フリーアナウンサー。「まっち」の愛称で親しまれている。趣味は音楽を聴くこと。特にセカイイチの「あたりまえの空」が大好きで、落ち込んでいる時ライブで聴いて元気を貰ったという。何歳になっても、回り道をして、夢を持ち続けて欲しいと話す。

■私を変えたイベントでの体験

小さい頃から母とラジオを聴いていました。そんな中でアナウンサーやラジオパーソナリティになんともなく憧れていました。



短大卒業後、化粧品会社に勤めながら、アナウンサーを目指して決めました。そうと決意しました。アナウンサーとして心がけていること、自分の感動、感情を大切に、素直な気が商品の紹介をしたのですが、まるで売れず、急ぎよ、私がやることに。自分も使用していた商品について、心を込めて説明したところ「あなたが言うなら信じていること」と

もなれるものではないという気持ちもあり、なかば諦めるためのスクール通いで、このことがきっかけで本気でアナウンサーを目指したのも楽しかったですね。県民の日のイベントで、大人気のもなりくん。握手や写真攻めで控え室に戻れないほどでした。そんな矢板のシンボルキャラクターをもっと知ってもらうためにどうすればよいか、一緒に考えていきたいです。

■矢板の取材で心に残っていること
サッカーの審判の相楽亨さんの取材は心に残っています。「なぜ東京に拠点を置かないのか？」の質問に「矢

板からでも世界に行ける」の言葉が印象的でした。また、イベントでも「取材を通して見えてきた矢板」取材に伺うと、最初は皆さん「話すことなんて何もないな」と言われますが、聞いていくうちに、だんだんと話してくれました。「矢板が好き、矢板を知って欲しい」という気持ちの表れなのだと思います。取材を思っています。取材をして、矢板の方の「矢板を向としたい」という熱い気持ちが伝わってきます。それがますます市民力なのですね。

■取材を通して見えてきた矢板
取材に伺うと、最初は皆さん「話すことなんて何もないな」と言われますが、聞いていくうちに、だんだんと話してくれました。「矢板が好き、矢板を知って欲しい」という気持ちの表れなのだと思います。取材を思っています。取材をして、矢板の方の「矢板を向としたい」という熱い気持ちが伝わってきます。それがますます市民力なのですね。

編集後記

今号から皆さまからの寄稿を募集することにしました。これはぜひ市民のみなさんに伝えたい、という素敵な活動・人・モノ・コトがありましたらぜひお寄せください。※ただし、掲載の可否は編集委員会で検討致します。

(R・K)